

マンガの聖地としまの皆さん /

## これも学習マンガだ! 大人も学べるマンガ入門

### 第3回

「これも学習マンガだ!」を主催する一般社団法人マンガナイトの連載です。



ジャンル：職業

### 『働きマン』

著者：安野モヨコ  
出版社：講談社



企画監修：山内康裕  
(マンガナイト代表・「これも学習マンガだ!」事務局長)  
構成：松尾奈々絵 (マンガナイト理事)

『働きマン』は、講談社の青年マンガ誌「モーニング」で2004年に連載が始まった作品です。作品の舞台は週刊雑誌「J-D A I」編集部。主人公の松方弘子が編集者として良い雑誌を作るため、明け方まで徹夜したりするなどプライベートの時間を犠牲にしながらも、日夜仕事に奮闘する様子が描かれており、その働きっぷりから彼女は同僚から「働きマン」と呼ばれます。

2020年のいま作品を読むと、働き方からみても、ジェンダー論の観点から読んでも違和感を感じる描写は、正直少なくありません。それは、作品の良し悪しではなく、作品が2004年の世相を反映していたからだともいえるでしょう。

では、この作品をいま読むことにどんな意義があるのでしょうか。松方と対照的な人物として、中には「仕事しかない人生だったと思うのはごめんだ」という新人の田中が登場します。そして彼だけではなく、作中には「働く」として様々な考えを持つているキャラクターたちが登場し、それぞれの仕事への気持ちを語ります。そういったキャラクターたちの考えを知りながら、「どう働きたいか」を見つめなおすことができる作品だといえるでしょう。

近年では「ワークライフバランス」が問題になりがちですが、大切なのはその人が人生に何を望んでいるのかではないでしょうか。趣味を仕事に生かしたいのか、仕事と趣味を切り離したいのか、仕事にまい進したいのか……。一概に「この働き方が正しい」というものはなく、「働きマン」と呼ばれる松方のように「働いたと思っ

て死にたい」という意見も、誰かに強要してはいけません。もちろん大切な価値観です。

一所懸命に働く人に、男も女も関係ない。松方や、その周りで彼女に関わる人々を通して「仕事とは」をテーマに描いた作品です。さて、あなたにとって「働く」とは何でしょうか？

## これも学習マンガだ! Manga Edutainment

世界発見プロジェクト

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

「これも学習マンガだ!」は、新しい世界を発見できるマンガや学びにつながるマンガを選出・発表し、国内外の読者に作品を届ける事業です。マンガの持つ「楽しさ」「分かりやすさ」「共感性」に着目し、社会をより良いものにしていきます。

マンガナイト  
<http://gakushumanga.jp/>

